

## 映画を通じ、一人ひとりが

## 主役として地域の未来に向け動き出す場を

## 「商店街な人」上映会&amp;フューチャーセッションin都庁

東京都庁で1月16日、大田区を舞台とした未来セッション型地域映画「商店街な人」(NPO法人ワップフィルム製作)の上映会とフューチャーセッションが実施された。映画の製作過程や物語に散りばめられたヒントをもとに参加者同士が対話し、未来を描くフューチャーセッションを通じて地域活性化の課題解決を共に行動する仲間を増やすのがねらいだ。

## 一人ひとりが地域の未来を語り合う場を創りたい

主催したのは、東京都庁職員などを中心とした自主活動グループ「Tokyo Think Sustainability」(通称T2S)。(その他協賛10団体\*)。T2Sは、09年6月に活動を開始し、メーリングリスト登録者だけで約200人以上の人々が集う。現在は、「えどぶろ・たまぶろ」という地域イベントに力を入れている。

今回は、T2Sメンバーの一人で、東京都立産業技術研究センターで産業振興に携わる庄司有美映さんを中心に企画された。12年秋頃に大田区で開催された映画「商店街な人」の上映会に参加したことがきっかけとなり、実行委員会を立ち上げた。

映画のストーリーは、大田区・蒲田のブランド化を図ろうとする「シ

ティプロモーション計画」に参加した主人公が恋人とともに事例を探りながら地元の人々と共に映画製作を通じてまちをブランド化し、活気づけていくもの。映画に出演している区民の姿から、温かなまちの雰囲気や地域の様子も浮かび上がる。

「羽田空港の国際化やそれに伴う蒲田地域の活性化、ものづくりの衰退を食い止めた」という登場人物の気持ちと私が持つ問題意識が合致して、自分が映画の中の一人になった感動を覚えた。地域課題を考えるヒントが詰まったこの映画をみんなに見てもらいたい」と庄司さんは話す。イベントには、平日の夜にもかかわらず約50人が参加した。はじめに、

NPO法人ワップフィルム理事長

で、本映画の監督も務めた高橋和勸さんが挨拶。「地域課題を考える際には、様々な職業の市民が課題を解決するために取り組むことが大切。映画には、蒲田に住む人をはじめ多様な人が出てくるので、その観点からこの映画を見てほしい。またワンシーンごとにどのような交渉がなされて撮影されたのかも、みなさんが映画を撮る立場になったと置き換え

てもらえれば嬉しい」と語った。映画「商店街な人」の上映会に続いて、フューチャーセッション。これは様々な市民が主体となって協働し、地域社会問題を新しい形で解決していくため映画を通じて自分たちでまちの将来ビジョンを描いて、活動に結びつけていくもの。取り組み

を通じて、複雑な問題解決の糸口の発見やメンバーの絆と実行力を生むことが期待できる。各テーブルでは、地域への思いやアイデアが飛び交い、会場は活気に満ちていた。

\*

イベント後、高橋監督は「映画が、地域の未来を一人ひとりが考えられるきっかけや創発になれば。T2Sと協働し、各地の上映を通じ、フューチャーセッションを広めたい」と意欲を語る。映画は、今回の協賛団体などでも順次公開が予定されている。今後、ワップフィルムを中心としてセッションの拠点となる「キネマフューチャーセンター」を蒲田に設立することを視野に、さらに地域を盛り上げる企画を展開していく。

(本誌/平野優介)



上映後のフューチャーセッションの様子。ゲストパネラーの高橋監督(写真中央)も参加し、各テーブルから地域への思いやアイデアが飛び交い会場は活気に満ちていた(1月16日、都庁で)。